会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和2年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第2回学習評価WG |
| 開催日時 | 令和2年9月16日（水）　15時30分～17時00分 |
| 場所 | オンライン会議 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾 委　　　員：植上　一希、岡村　慎一、近藤　賢宏、岩﨑　千鶴、瀧本　知加、小田　茜、丹田　桂太、佐藤　昭宏　　　　　　　　　　　　　　　 計 9名オブザーバー：渡邉　晶帆、内川　穣太　　　　　　　　　　 計 2名請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　 計 1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 合計12名 |
| 議題等 | 1. アクションリサーチのヒアリング項目、調査項目の検討（植上）

・アクションリサーチ実施に関して説明（瀧本）・非認知能力に対する考え方・認識の差が大きいと思われるので、アンケート調査で定義を整理し、アクションリサーチに繋げていく。・カリキュラム全体と授業、行事等の区分けの整理が必要。・教育課程への反映と授業への反映について、教務担当から授業担当教員への落とし込み方法が視える化されると良い。・（１）専門学校で育成しようとする「力（非認知的能力）」の明確化（２）それらの「力」を学習評価に落とし込むための方法以外に、非認知能力を認識するプロセスを明らかにすることも検討する。1. アンケート項目の検討（佐藤）

(1)アンケート調査の位置づけ設計のポイント再確認・2020～22年度の課題設定、2020年度の方向性と着地点の説明・目的は大きく2つ。①アクションリサーチの前提条件を知る　②プログラム開発に際する根拠の収集。その中で教育課程作成の実態、授業づくり・学習評価に際しての意識について基礎的なデータをとる。他、非認知能力や認知能力を入れこみながら実態を聞き出す、という狙いがある。(2)アンケート項目（たたき台）検討・アンケート項目の説明　大きく、①個人特性 ②学科内の取り組み ③授業担当者の取り組み の　　3項目。項目によって回答者を区分する予定。　主導者、成果外活動での評価、理念・クレドへの共感等の質問も検討。・非認知能力の項目は出したほうが、学校・学科ごとの重要視されている項目が得られるので、良いのではないか。・もっと研修プログラム開発に寄せるか。・個人特性の項目のNO.4（授業の受け持ち方）について、現状では答え方が難しいので回答方法のサジェスチョンを検討。・研修のテーマは評価ではあるが、非認知能力を育成する学習方略があっての評価なので、アンケートでは非認知能力に繋がる授業展開が確認できると良い。・学校、学科、教員の経験値によって生じる教員間の教育観の違いを、このアンケートで回答者自身が認識でき、調査結果からその実態を収集できると良い。・今までの意見を考えると、誰に対してアンケートを取るのか、またアンケートの取り方（対象校）を検討する必要があるのでは。3. スケジュール調整・第3回学習評価WG会議…10月7日（水）14時～16時　福岡で対面開催。6. 事務局から・移動の際はGoToキャンペーンの使用は禁止。 |
| 配布資料 | ・学習評価WGミーティング資料0916・アクションリサーチ（案）・学習評価研修アンケート項目vol.1(たたき台） |

以上